

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告目次

三恵会本部	1 ~ 2
特別養護老人ホーム きぼうの苑	3 ~ 4
障害者支援施設 あゆみ苑	5 ~ 6
ケアハウス 夢テラス	7 ~ 8
障害者支援施設 三恵ホーム	9 ~ 11
児童福祉施設 十全保育園	12 ~ 14
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	15 ~ 16
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	17 ~ 18
老人保健施設 希望の館	19 ~ 20
通所介護事業所 おいでんや	21 ~ 22
多機能型事業所 わくわくクラブ	23 ~ 24
地域子育て支援事業（ひろば型）にこちゃんパーク	25 ~ 27
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	28 ~ 29
グループホーム かがやき	30 ~ 31
児童福祉施設 中萩保育園	32 ~ 35
養護老人ホーム 慈光園	36 ~ 37

三 恵 会 本 部

令和3年度 事業報告

1. 経営方針

令和3年度は、社会福祉法改正後5年目となり、社会福祉法人に求められている「経営組織のガバナンスの強化」、「法人運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」について、経営の主体となる「理事」、「理事会」、「監事」、「評議員会」が有効に機能するよう運営を実施してまいりました。

「ガバナンスの強化」では、理事会を8回、評議員会を4回開催し、事業計画、予算、理事及び業執行理事、監事、評議員の選任、各種規程、定款変更など重要事項に対し、審議・決議をしてまいりました。また、内部管理体制の強化のため、1月に業務執行理事を1名追加し、3名体制といたしました。

「財務規律の強化」では、会計監査人の導入により、財務情報や社会的な信頼性の向上だけでなく、経営上の問題点も把握でき業務改善に有効に機能しております。今年度は、本業利益は2億3,010万円（減益）、当期最終利益は、1億2,926万円（増益）となりました。

「人材確保」については、大学、専門学校、高等学校との連携を強固なものとし、コロナ禍の中であっても、ズームを活用したオンラインでの採用活動を実施するなど、工夫をしながら三恵会を選んでいただけるよう活動してまいりました。その結果、令和4年4月に10名の新規学卒者を迎えることができました。

「適正な給与制度の構築」では、11月、1月、3月に説明会を実施し、4月より新制度に移行いたしました。今後は制度がしっかりと機能するようコンサルタント会社の支援も受けながら進めてまいります。

中萩保育園の建替えについて、5月に設計業者の選定を行い、随時申請手続きを行いました。その結果、令和4年4月1日に「保育所等整備交付金」の内示を受けることができました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

（1）人材確保の取り組み

①安定的な法人運営のためには、職員の確保が必要不可欠であることから、インターンシップ、定期的な学校訪問、就職セミナーへの参加、ブログ等による広

報活動、企業説明会・見学会の開催。

- ➡コロナ禍の中、感染対策を徹底し、学校訪問やオンラインでの企業説明会、インターンシップ等を行い、新規学卒者10名を採用することができた。
- ②奨学金貸与事業により、介護福祉士・保育士を目指す学生に対し、就学に必要な学費の一部を奨学金として貸与することにより、優秀な人材を長期的に確保する。
- ➡令和3年度は、確保につながらなかった。

(2) 適正な給与制度の構築

- ①業務内容、役割、責任が明確で、経営目標、経営計画の達成のために効率的な組織を構築し、職員の労働意欲の向上を図るために、職員が発揮した能力、成果に応じて、職員を処遇する仕組みの構築を目指す。
- ➡理事長、施設長、職員への説明会を実施し、令和4年3月の理事会の承認を経て4月から新制度へ移行した。

3、研修計画

(1) 法人内研修（オンライン研修）

階層別研修（日本経営）

若手層向け研修

- 第1回 令和3年 6月29日 参加者13名
- 第2回 令和3年 7月27日 参加者16名
- 第3回 令和3年 8月27日 参加者14名

若手層 フォローアップ研修

- 第1回 令和3年 7月29日 参加者14名
- 第2回 令和3年 8月31日 参加者13名

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

令和3年度 事業報告

きぼうの苑

1. 運営の概要

令和3年度は、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響によって制限され、新たな取り組みを実施することができませんでした。

入所稼働率においては、退所後の新規入所について迅速に対応することができ、一応の成果は出ましたが、入院者が多い状況が続いているため、今後入所者の健康管理や健康維持に向けた対策を行うことが必要とされます。

そのような中で、防災における事業継続計画（B C P）や避難確保計画の作成と学習会の実施、感染症対策における事業継続計画（B C P）作成とシミュレーションの実施による職員の知識と技術の向上に努めることができました。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営を目指して努力しました。
- ② 職員相互が連携し、チームワークのとれた業務の遂行ができるよう努めました。
- ③ ご利用者が安心安全で快適に過ごせるよう生活環境の整備に努めました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① リスク管理のため、介護事故の検証と対策、書類や業務等の見直し、環境整備を行いました。
- ② ノーリフトケア推進のため、電動ベッド購入等の環境整備を行いました。
- ③ 介護福祉士等の資格取得挑戦への積極的な支援を行いました。
- ④ 感染症や防災対策の学習会等を通して、知識と技術の向上に努めました。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① コスト管理について、経費節約の取り組みを強化しました。
- ② 退所後の新規入所を迅速に行うよう努めました。
- ③ 感染症や防災対策として、備蓄や備品等の整備に努めました。

3. 研修実施報告

(1) 施設内（あゆみ苑・夢テラスと合同）

①三恵会本部主催

新人研修 階層別研修 他

②自主研修

4月 接遇	10月 リスクマネジメントについて
5月 褥瘡防止について	11月 個人情報・プライバシー保護について
6月 食中毒予防について	12月 虐待防止について
7月 感染症予防について	1月 リスクマネジメントについて②
8月 身体拘束廃止（防止）について①	2月 身体拘束廃止（防止）について②
9月 認知症ケアについて	3月 メンタルヘルス、セクハラ、パワハラ

(2) 施設外

- ① 老人福祉施設協議会関係 →中止またはオンライン研修
- ② 職種別関係 →中止またはオンライン研修
- ③ その他
新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修
ノーリフティングケア、ユマニチュード研修 →中止またはオンライン研修

4. 行事報告（年間）

新型コロナウイルス感染防止のため、大規模な行事は中止となりました。

*定期行事：各クラブ活動等

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

(1) 地域交流 (2) ボランティア活動

※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

(3) 実習生の受け入れ

十全看護専門学校

※その他は新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

障害者支援施設
あゆみ苑

令和3年度 事業報告

あゆみ苑

1. 運営の概要

令和3年度は、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響によって行動は制限され、新たな取り組みを実施することができませんでした。

稼働率について目標数値に達することができず、今後も感染状況を注視しながら対策を検討し、実施していく必要があります。また、新たな取り組みについても関係部署で協議し、実践していくことが必要とされます。

そのような中で、きぼうの苑と同様に防災における事業継続計画（B C P）や避難確保計画の作成と学習会の実施、感染症対策における事業継続計画（B C P）作成とシミュレーションの実施による職員の知識と技術の向上、利用者の意識向上に努めることができました。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) 「誠実な福祉」 の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営を目指して努力しました。
- ② 職員相互が連携し、チームワークのとれた業務の遂行ができるよう努めました。
- ③ ご利用者が安心安全で快適に過ごせるよう生活環境の整備や体力低下予防と健康の維持・増進に努めました。

(2) 「確実な知識と技術」 の修得

- ① 高齢化が進むご利用者個々の障害特性の把握と事故防止対策に努めました。
- ② 障害者支援についての理解をより深め、統一した支援対応に努めました。
- ③ 介護福祉士等の資格取得挑戦への積極的な支援を行いました。
- ④ 感染症や防災対策の学習会等を通して、知識と技術の向上に努めました。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 経費節約の取組みを強化しました。
- ② 退所後の新規入所を迅速に行うよう努めました。
- ③ 感染症や防災対策として、備蓄や備品等の整備に努めました。

3. 研修計画

(1) 施設内（きぼうの苑と合同）

- ① 三恵会本部主催
新人研修 研究発表研修 他
- ② 自主研修（毎月実施）

(2) 施設外

中・四国身体障害者施設協議会施設長会（研修会）・施設職員研修大会・支援職員研修会
事務管理研修会

愛媛県身体障害者施設協議会施設長会・施設職員研修会

*上記研修会は、感染症対策によりオンラインにて実施。

4. 行事報告（年間）

新型コロナウイルス感染防止のため、大規模な行事は中止となりました。

*定期行事は実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

(1) 地域交流

(2) ボランティア活動

(3) 実習生の受け入れ（特別支援学校の実習受け入れは実施）

※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れはほぼ中止となりました。

ケアハウス
夢テラス

令和3年度 事業報告

夢テラス

1. 運営の概要

令和3年度は、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、地域へ出て活動を行うなどの試みについて実施することができず、施設内での活動が中心となりました。

退所後の新規入所については昨年度よりも迅速に行うことができましたが、申込者が少ない状況で満室にすることはできず、今後広報活動を含めた対策やケアハウスの在り方を検討していく必要があります。

そのような中で、きぼうの苑、あゆみ苑と同様に防災における事業継続計画（B C P）や避難確保計画の作成と学習会の実施、感染症対策における事業継続計画（B C P）作成とシミュレーションの実施による職員の知識と技術の向上、利用者の意識向上に努めることができました。

2. 具体的な取り組みの実績

(1) 「誠実な福祉」 の実践

- ① 三恵会理念、行動指針に基づいた施設運営を目指して努力しました。
- ② 職員相互が連携し、チームワークのとれた業務の遂行ができるよう努めました。
- ③ ご利用者が安心安全で快適に過ごせるよう生活環境の整備や体力低下予防と健康の維持・増進に努めました。

(2) 「確実な知識と技術」 の修得

- ① ご利用者の状況に合わせて、業務内容の見直しと職員間の情報共有、連携強化を図りました。
- ② 感染症や防災対策の学習会等を通して、知識と技術の向上に努めました。
- ③ 関係機関との連携を強化し、情報共有に努めました。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 機能低下を防止できるよう個別の支援を行い、長期利用につながるよう努めました。
- ② 退所後の新規入所を迅速に行うよう努めました。
- ③ 感染症や防災対策として、備蓄や備品等の整備に努めました。

3. 研修実施報告

(1) 施設内（きぼうの苑、あゆみ苑と合同）

- ① 三恵会本部主催
- ② 自主研修（毎月実施）

(2) 施設外（ほぼ中止）

4. 行事報告（年間）

新型コロナウイルス感染防止のため、大規模な行事は中止となりました。

*定期行事：買い物代行 茶話会 誕生会 歌声喫茶クラブ おやつクラブ お茶クラブ
健康体操（毎週）、気分転換のためのミニドライブ等

5. 地域交流、ボランティア、実習生受入報告

- (1) 地域交流
- (2) ボランティア活動
- (3) 実習生の受け入れ

※新型コロナウイルス感染防止のため、受け入れ中止となりました。

障害者支援施設
三恵亦一ム

令和3年度 事業報告

障害者支援施設三恵ホーム

1 経営方針と現況について

令和3年度は新型コロナの変異株等の対策により、活動制限を強いられる年度でした。その中においても、感染防止対策に努めながら利用者に「自分らしく心豊かな満足のいく生活」を送って頂きたく、職員が一丸となり、工夫をしながら1年間取り組みました。

また、利用者の高齢化による障害の重度化や重症化、疾病の重複化や体力の低下が進むなかで利用者のニーズや価値観に対応し、日常生活または社会生活を総合的に支援ができるよう、サービスの質の向上に努めました。

一方で、深刻な人材不足に様々な課題が顕在化するなか、施設として働きやすい職場環境を整え、職員の育成、定着に努めました。

令和3年度の稼働率については、施設入所においては91.9%に留まりました。

このことについては、入所者の高齢化、疾病による退所、入所待機者の入所辞退の不均衡が原因の一つとして挙げられます。今後はそのことも踏まえて、より一層スピード感をもって対応して参ります。

次に短期入所の稼働率については、37.2%となり、コロナの影響が挙げられます。コロナ感染対策を進めながら、今後、利用者増に向けて取り組んでまいります。

相談支援事業については、登録者が127名でした。この事業においても関係機関と連携を取りながら登録者増に繋がるよう努めてまいります。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 職員の確保、育成

生活支援員、看護師、調理員の不足に対して、職員の確保が大きな課題となりました。ハローワーク、民間紹介機関も活用して募集も行ってはみましたが、思う様に効果が得られませんでした。引き続き人材確保に努めて参ります。

人材の育成については、フィードバック面接等で職員の思いを聴き、悩みなどを抱え込まないよう早期解決に努め、働きやすい職場環境を整え、人材の定着に努めて参りました。

(2) 利用者の思いを尊重した支援

利用者個々の考え方や思いに耳を傾け、一人ひとりの生活スタイルを尊重し支援に努めました。

また、利用者の今一番の希望・願いを実現するためのサービスなどの情報提供や個別支援計画の作成を行い、利用者が自分らしく過ごすことができるよう支援し、ニーズの達成状況を毎月確認し、他部署との連携を図りながらニーズの実現に努めました。

(3) 利用者が安心して過ごすことのできる施設づくり

各部署との連携を密にし、利用者にとって安全・安心かつ、心豊かな生活を過ごしていただけよう、サービスの提供に努めました。

また、常に利用者の健康・安全に意識を持ち、高齢化に伴う認知症や骨粗鬆症の重症化に考慮し、細やかな支援に努めました。

(4) 介護サービスの質の向上

WEBによる施設内研修や外部研修を取り入れることで、利用者支援に生かすことが出来るように努めました。

また、定期的にリーダー会、ユニット会を開きサービスの質の向上や問題の早期解決に努めると共に相談支援専門員及び各関係機関との連携を図ることで、施設利用者は元より東温市内の障害者、東温市近郊の障害者の支えにもなれるようにサービスの向上に向けて体制を整えることに努めました。

3 研修計画

(1) 施設内

- ア 年間研修計画（毎月1回）に基づき、オンラインにて研修を実施致しました。
- イ 施設内外研究の資料作成の充実を図りました。

(2) 施設外

- ア 全国身障協職員研究大会（中止）
- イ 中・四国身障協施設長総会及び研修会（文書審議等）、事務管理研修及び支援職員研修大会、職員研修大会はオンラインにて参加致しました。
- ウ 県内身障協職員研修会、サービス管理責任者研修会はオンラインにて参加致しました。
- エ 職種別専門研修会を実施しました。
- オ 三恵会本部主催の職員研修（希望の館、事例報告）に参加しました。

4 行事予定

- 4月 ドライブ外出、藤の花鑑賞会（利用者・職員で小規模実施）
- 5月 愛媛県障害者スポーツ大会（中止）
- 8月 夕涼み会（利用者・職員で小規模実施）
- 9・2月 防災訓練（昼間の地震・火災想定訓練を職員のみで実施、土砂災害訓練は東温市とのFAX送受信にて実施）
- 12月 餅つき大会、クリスマス会、忘年会（利用者・職員で実施）
- 1月 鏡開き（利用者・職員で実施）
- 2月 節分豆まき（利用者・職員で実施）

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ア 東温市身障協助会との交流（中止）
- イ 川内保育園との交流（職員で挨拶訪問）

ウ 川内中学校との交流（中止）

エ 東温市仲間づくり事業交流（中止、補助で日中活動用ゲーム購入）

（2）ボランティア活動

ア 職員ボランティア活動

・地区の春の井出清掃と秋の道づくり（コロナ感染防止のため欠席）

・国道11号歩道の生垣の清掃 隔月1回（実施）

イ ボランティアの受入れ

ボランティアの受け入れ（すべて中止）

（3）実習生の受入れ

・河原医療福祉専門学校 ・聖カタリナ大学 ・愛媛大学

・松山学院高等学校(福祉科)受け入れ（すべて中止）

兒童福祉施設
十全保育園

令和3年度事業報告

1. 経営方針

令和3年度も令和2年度に引き続きコロナウイルス感染は収まらず、新型コロナウイルス感染症の影響は大変大きなものでした。

保育については、制限された環境の中でどうすれば、感染対策をしつつも、以前のような取り組み・行事・保育ができるだろうかと、職員の間で討議し実践していきました。困難であると中止したこともありましたが、コロナ禍の中でもやはり子ども達の喜びや経験を大切にしたいと保育の内容を変えて、これならできると、保護者が参加しないで、子ども達だけで夕涼み会をしたりしました。また、保護者の保育園でどのような生活をしているのか、実際に見てみたいという要望もあり、参観も1日でなく、3日間のいずれかの日に来て頂き、「密」を避けた参観をしたりするなど、工夫してきました。取り組みの中で、職員自身も感染予防や消毒の方法、どのように対処すべきか等の知識を得つつ、感染を持ちこまない、感染しても最小限に食い止めるという職員の意識も高まり感染予防に努めました。

しかし、陽性者や濃厚接触者が出了ことで待機や休園をしなければならなくなり、感染対策の徹底の難しさ、また、保育園社会的役割も改めて感じた年でもありました。

まだまだコロナウイルス感染は、油断できない状況であり、また、それに代わる他の感染症も発生することも今後あると思います。それに対して、その困難な状況であっても、情報や知恵を集め、職員が一丸となって、保護者の理解・協力を求めながら、保育園の信頼に対して、真摯に向き合い、誠実な保育、きちんと一人ひとりの発達を保障できる保育園運営を進めていきたいと考えています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・大きなかがは、ほとんどなく、保育を行うことができた。
- ・新型コロナウイルス感染に対して、感染予防の消毒や換気を行い、児童・職員の体調管理を徹底した。特に体調管理については、その日の状況だけでなく、病気の経過や観察を細かく行い記録した。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・発達支援課の巡回相談から、就学相談につなげ、安心して就学できるようにしていった。また、発達面で気になる子は保護者に来園してもらい話し合い、専門家を交え、発達の課題を明確にしていった。
- ・保育園の行事の取り組み等により、園児ひとり一人の発達が促され、今までの保育の成果が確認できたことが、保護者の喜びとなり、次への発達のステップとなった。

- ・コロナ禍の中でも感染予防に努めながら、保護者の理解・協力のもと、行事を実施することができた。子どもの精神面においても成長が伺える場面を設定できた。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上について

- ・キャリアアップ研修では、計画的にリモート研修参加することができ、普段、研修できない専門的な内容を学ぶことができた。また、研修後のレポートも制限のある中でまとめる作業を経験した。
- ・コロナウイルス感染症に対して、分からぬ部分はありながらも、情報を得て消毒方法を確認し、意識も高まった。

②職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めた。特に栄養士は、食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができた。
- ・行事においては、連携・協力し合い、取り組むことができた。また、早めの取り組みで計画的に進めた。コロナ禍を意識した取り組みを行い、職員の創意工夫が活かされた。
- ・自分のクラスの保育だけでなく、他のクラスの保育に関わり協力し、逆に自分のクラスを助けてもらうことで、職員同士の繋がりが深まり、職員一人一人の役割、存在意識が高まり、職員のモチベーションアップを感じることができた。

(3) 「堅実な経営」の実践

- ・児童数に対して、適切な保育士の配置を検討し、その中で、いかに中身が充実した保育が行えるか意識した。
- ・コロナウイルス感染の中で、感染予防対策の備蓄内容を検討し、備蓄の見直しが図れた。コロナウイルス感染予防の補助金を利用することで、消毒を進め、玩具や備品の整理ができた。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会・先任者会・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会研修
- ・三恵会主催研修 等

4. 行事実績(年間)

- 4月 歯科健診
- 5月 野菜苗植え・種まき・健康診断
- 7月 七夕会・プール開き・就学相談・夕涼み会ごっこ・(園内)
- 8月 プール大会
- 9月 敬老の日にちなんでの葉書投函・運動会
- 10月 お祭り集会(園内)・歯科健診
交通安全教室
- 11月 マイントピア別子遠足(年長児)・七五三・職場訪問(消防署、西原郵便局)
歯科検診・交通安全教室・巡回相談
- 12月 火遊び防止教室・もちつき・クリスマス会・健康診断
- 1月 新居浜ネットワーク「もうすぐ一年生」撮影
- 2月 節分・生活発表会(たのしいあつまり)・年長児お茶会・記念撮影
- 3月 交通安全教室・健康診断
乳児遠足・お別れ遠足(園内)・お別れ会・卒園式
(毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

※コロナウイルス感染予防のため、交流はなかったが、新居浜西高等学校の学生が、手作りおもちゃを作つて持つてくれました。

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

1、 経営方針

長期的に安定し健全経営のできる体制の確立を目指すという経営方針に関して、人的体制確立において各方面に働きかけるも「看護・通所介護」において結果的に不充分な結果となり、継続的努力が必要となりました。一方、施設運営上においては比較的スムーズで安定した業務が遂行できる施設体質になり「働きやすい職場」作りが出来つつあると思います。事業活動収入年間5億の確保を目指す経営体質作りに関しては全くをもって残念な結果となりました。施設入所稼働率（短期間）81.6%で短期入所の低稼働率・前年を大きく上回る入院者によるところが大きく、経営上苦戦の主原因となりました。また、通所介護は人的欠の中81.9%の稼働を達成し善戦したもの当初目標の88%稼働は未達となりました。そのような状況下、最終的収支において経費削減等全員の協力のもと、当初予算であった法人繰入金500万に肉薄する収支差額380万を確保できた事は一定の成果となりました。

2、 重点課題、具体的な取り組み

（1） 誠実な福祉

「情報の共有と確実な伝達」・・・概ね達成できた。

「基本に基づいた確実な介護・看護の提供」・・・一部において改善を要するが概ね達成できた。

（2） 確実な知識と技術

「無資格介護職員の認知症研修の受講」・・・感染状況悪く未達

「職場内研修の充実と実行」・・・年間目標設定により概ね達成

（3） 堅実な経営

「当初予算の必達」・・・未達であるが肉薄した。

「在宅部門収益の強化」・・・人的欠により未達となった。

3、 研修計画

（1） 施設内研修

・部署別研究発表（職場全体会開催時）・・・概ね達成できた。

・テーマ別研修・・・感染状況悪く上記職場全体会の開催に絞り未達。

（2） 施設外研修

・老施協主催研修会への参加・・・縮小もあり未達

・認知症研修への参加・・・未達

4、 行事予定

◎施設行事・・・敬老会・クリスマス会は縮小し感染対策を行い実施

観月会・忘年会・餅つき・初釜は中止

◎デイサービス・・・初釜・しめ縄作り・餅つきを除き、車上見物等感染対策を十分に行い縮小実施いたしました。

5、 ボランティア、実習生

地域交流・・・・・感染状況悪く未実施
ボランティア・・・・感染状況悪く未実施
実習生受入・・・予定時期の感染状況悪く未実施

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

令和3年度 事業報告

リハビリステーション三恵荘

1、運営の内容

令和2年度に続きコロナウイルス感染症の影響を受け続けた1年でした。日々、感染対策に追われ、感染症は回避できましたが活動の制限をされる場面が多く、職員、ご利用者様ともに精神的にも身体的にも不安定な1年であったと思います。ただ、日々の感染症対策にて職員の感染症に対する危機意識や対応能力の向上が見られたことは今年度の収穫でした。

経営状況に関して入所部門は年間を通じて「強化型」を算定する事ができました。しかし、新規利用申込者の減少や長期利用者の重度化等により目標稼働を達成することができず、前年度と比較し延利用者数804名減という結果となりました。今後は「強化型」を維持しつつ安定した稼働が維持できるよう努力が必要であると考えます。通所部門はコロナによる利用控えや県外移動等による利用制限があり、延利用者数253名減となりました。結果、当初予算と比較し大幅な収益減となりました。

施設整備に関しては、ご利用者様に快適に過ごしていただけるよう経営状況を考慮しながら修繕、備品の入替え等実施いたしました。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」

- ①ご利用者・ご家族の多様なニーズを的確に捉え柔軟な対応をしていく。
⇒ケアプランの見直し、ご家族への随時の報告にてニーズに沿ったサービスの提供に努めました。
- ②多職種連携による情報の共有にて、ご利用者が快適に過ごせるよう支援していく。⇒短時間での会議、書面での情報共有を行いました。

(2)「確実な知識と技術」⇒感染症により一部未実施

- ①各種研修会等への参加を推進し、知識や技術の向上を図る。
(ユマニチュード受講者の増大他)
- ②職員間で知識や技術の共有を図り、より良いサービスの提供に努める。
(施設内勉強会の拡充)

(3)「堅実な経営」

- ①安定的な加算の算定にて着実な事業活動収入の増大。
⇒年間を通じて「強化型」の算定ができました。
- ②費用対効果を常に意識し、ご利用者が快適に過ごせる環境づくりを行う。

⇒開設当初から使用していた床頭台の入れ替えを実施。リハビリ器具の購入等

3、研修計画

【施設内】 ⇒一部感染症にて書面会議

- ・認知症研修
- ・接遇検討会
- ・感染症対策勉強会
- ・身体拘束廃止研修
- ・虐待防止に関する勉強会等

【施設外】 ⇒中止またはオンライン研修

- ・老人保健施設全国大会
- ・通所リハビリテーション研究会
- ・ユマニチュード基礎研修

4、行事予定

施設・通所リハビリテーションともに予定していた各種行事や外出行事について一部感染症にて中止となりました。施設内行事においては感染対策を行い実施いたしました。

5、地域交流、実習生、ボランティア

①地域交流

地元太鼓台の訪問、大生院・中萩校区文化祭、ふれあい夏祭り
ピンピンきらり体操、大生院地域食堂参加
(感染症にて一部未実施)

②ボランティア受け入れ

地域有志の歌レク等(感染症にて中止)

③実習生の受け入れ

学校等：新居浜南高等学校(リモートにて実施)
河原医療学院(感染対策を実施して受け入れ)

老人保健施設
希望の館

令和3年度 事業報告

老人保健施設 希望の館

1. 経営方針

今年度事業計画で掲げた「感染症・介護報酬改定への対応」「数値目標」について取り組んだ結果を報告します。

(1) 入所部門（入所・短期）

目標稼働率 89.1%（補正後）に対し、実績は 88.8%となりました。4/22 に新型コロナウイルスクラスターが発生し、6/11 に終息となりましたが、稼働率が低下し、通常の稼働率（95%前後）に戻すのに約半年かかっています。結果として一度「在宅強化型」に類型を落とすこととなりましたが、11か月間「超強化型」での算定を達成することが出来ました。

目標にしていた管理栄養士 2 名体制による栄養マネジメント強化加算の算定については、令和4年3月から算定を開始することができました。

(2) 在宅部門（居宅・通所リハ）

居宅部門については、コロナウイルス感染症の関係で、各事業所との連携に苦慮しましたが数値目標をクリアし、目標プラス 1名の実績 171名となりました。

通所リハビリテーションについては、入所部門での新型コロナウイルスクラスター発生により、4/23～6/14まで（営業日としては 45 日）営業中止となりました。9月には定員の 70%以上まで稼働率が戻ってきましたが、最終的に 60.8%の稼働率となりました。

【入所/短期】目標 89.1（入所 86.8、短期 2.3）→ 実績 88.8（入所 86.8、短期 2.3）〈定員 100名〉

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
96.4	83.3	80.3	80.1	83.6	87.7	90.8	90.3	90.2	95.1	94.3	94.5	88.8

【通所リハ】目標 24.4（介護 18.9、予防 5.5）→ 実績 21.3（介護 16.4、予防 4.9）〈定員 35名〉

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
21.1	0	10.5	21.9	23.8	25.1	26.0	26.0	25.6	25.9	24.6	25.4	21.3

【居宅】目標 170名（介護 125、予防 45）→ 実績 171名（介護 127名、予防 44名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護	116	130	128	123	127	124	126	127	132	132	125	129	127
予防	42	50	45	45	45	45	44	44	43	40	40	41	44

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ・介護報酬改定にともなう利用料負担増に対する利用者への丁寧な説明と同意 → 継続中
- ・感染、災害が発生した場合でも、安定的、継続的なサービスの提供 → 未達成
- ・実践的な感染対策マニュアル、事業継続計画（BCP）の策定 → 継続中
- ・特殊浴槽の入れ替えにともなう満足度 UP → 特殊浴槽の入れ替え完了

(2) 「確実な知識と技術」の習得

- ・在宅復帰支援の継続と地域貢献事業（介護教室等）の実施 → 未達成
- ・多職種連携によるターミナルケア（看取り）の充実
→ 17名の看取りを実施し、ターミナルケア加算を算定
- ・科学的介護情報システム（LIFE）の活用による重度化防止への取組 → 継続中
- ・認知症ケア関連資格の取得・リーダーの養成（認知症介護実践者研修他）
→ 認知症介護実践者研修については、2名の職員が研修を修了

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ・オンラインインターンシップ等の実施による人材確保への取り組み → 未達成
- ・サービス提供のICT活用による業務負担軽減と簡素化
- ・ICT関連補助金を利用した設備の充実
- ・リスクマネジメントに対する強化（事故発生防止の指針整備と研修実施）
→ 補助金の申請を行い、介護ソフトのクラウド化とモバイルPC5台とタブレット5台を導入
ICTの取り組みを実施。業務負担の軽減化とペーパーレス化に取り組み中
リスクマネジメントに対する指針整備も継続

3. 研修計画

- (1) 施設内・・・資料供覧にて実施
- (2) 施設外・・・オンライン研修他一部を除いて中止・延期

4. 行事計画（年間）

- ・コロナウイルス感染症発生期間中（4～6月）の行事はすべて中止
- ・7月以降の行事については規模縮小・フロア別にて実施

5. ボランティア・実習生

- ・ほぼすべての受け入れがコロナ禍の影響で中止・延期

通所介護事業所
おいでんや

令和3年度 事業報告

通所介護事業所 おいでんや

1. 経営方針

介護報酬改定+9月までの期間限定で新型コロナウイルスに対する特例措置0.1%の上乗せがあり、利用者様も職員も混乱してのスタートでした。

「自立支援」「重度化防止」「できる事は自分で」じっくり待てるサービスの提供を掲げていましが“お客様なのにここ（下膳）までしてもらうのか”“手に麻痺もないし湯呑み1つぐらいは持って行けるだろう”など正解の出ない議論を繰り返し、統一したケアができたのかと問われると疑問も残っています。

コロナウイルス感染症に関しては、利用者様の自宅から持ち込まれた例が1件発生し保健所とのやり取りもありましたが、日頃からの対策で十分だとご回答をいただき閉所にまでは至りませんでした。

2. 重点課題

1) 稼働率の向上

数値目標・・・1日あたり23名以上の目標に対し、19.9名・79.9%の稼働率でした。

1月2月の落ち込みが響いたものと考えます。

2) 職員の資質向上・スキルアップ

接遇態度に関しては、親しさ故に言葉遣いや語尾がキツクなりがちで、改善の余地が大きいにあると感じています。

3) 独創性を加味したサービスの提供

利用者様が一番喜んでくださる外出（特に春と秋の個別外出）も2年間我慢を強いられてきたので、2022年1月から【お誕生日月特別外出】を提案し実施しています。令和4年度も引き続き実施していきます。

4) 交流・ボランティア

職員の人手不足に伴い、他部署の職員にヘルプをお願いしていた時期があり、利用者様にとって新しいボランティアさん感覚でおいでんや以外の職員との交流が持てた1年になったと思います。

5) 記録の充実

昨年度の実地指導の際にご指摘いただいた点に重点を置き記録に残すことができました。

3. 研修報告

1) 施設内研修

時には延期で、リモートでと形は変わりましたが実施された研修会には積極的に参加しました。

2) 施設外研修 には参加できませんでした。

4. 年間行事予定

4月	5月	6月	7月
・お花見 (ドライブ合) ・個別外出	・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり(合) ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・避難訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物 ・個別外出
12月	1月	2月	3月
・もちつき(合) ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め	・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・避難訓練 ・カラオケ大会(合)

※ 毎月開催行事 ... 外食・買い物

音楽療法(ピアノ・三味線演奏)

十全総合病院より売店来館(2回/月)

おやつ作り

● 『個別外出』の部分についてはコロナの為実施できず。

● 6月にはペタンク大会、10月には運動会を開催し盛り上がる。

多機能型事業所
わくわくクラブ

令和3年度 事業報告

多機能型事業所わくわくクラブ

1. 経営方針

生活介護事業は、障害の重度化や高齢化によるサービス利用のニーズが多様化する中、利用者が地域生活を継続していくよう、又、そのための適切な支援ができるよう、サービスの充実を図って参りました。障害の重度化・高齢化に向けて職員の介護技術・資質向上を大きな目標とし、利用者及び家族の地域生活継続への想いに細やかに寄り添える事業所を目指してきました。

放課後等デイサービス事業所は市内でも今なお増加しております。制度設立の趣旨に軸足を置いて、障がい児の皆となれるような持続安定的な事業運営に努めて参りました。

また、新型コロナウィルスをはじめとした感染症予防対策への取り組みを強化し、安全で安心できる環境作りに取り組む事が出来ました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 事業所拡大を目指して

* 生活介護事業

感染症拡大防止対策により外部との交流機会が格段に減少したことで、新規利用者獲得には至らなかつたが、相談支援事業所との連絡・調整に努め、安定的なサービス提供に努めてきました。

* 放課後等デイサービス

感染症対策により、幼稚園・保育園との直接的な接触は出来なかつたが、相談支援専門員や他施設との連携により、新たな利用者を獲得する事が出来ました。職員も知識の向上、スキルアップの為、研修に積極的に参加して参りました。

(2) 支援内容の充実

① 重度化・高齢化への対応

生活介護事業においては、障害の重度化・高齢化に伴う利用者のニーズが多様化する中、様々なニーズに幅広く対応できる技術を高め、家族の介護負担軽減に努めて参りました。また、放課後等デイサービス事業においても、職員の資質向上を図ると共に、ご利用者及びご家族が安心して地域生活を送ることが出来るための支援を関係機関と連携を図りながら進めて参りました。

② 多様な活動の場の提供

作業工賃アップを目標に、希望者には安定的に作業を提供できるよう業者との調整、印刷業務のレベルアップに努めた結果、多い月には1万円を超える工賃を支払えるほどの成果をあげる事が出来ました。今後も安定的な作業提供に努め、働く意欲・働く喜びを実感してもらえるよう努めていきたいと思います。また日々の活動を通じ一人一人が自らの能力を最大限に発揮できるよう支援し、コロナ禍においても安心して過ごす事が出来る場の提供に努める事が出来ました。放課後等デイサービスにおいても、卒業後の自立に向けた支援、学びと育ちを支援する対策を進め取り組む事が出来ました。

③ 社会参加の促進

愛媛県障がい者スポーツ大会をはじめ、様々な地域行事はコロナ禍のため中止を余儀なくされましたが、作品展への出品など参加可能な行事には積極的に参加する事で、社会参加促進に努める事が出来ました。今後も状況に応じて行事参加を検討し、利用者がより豊かな社会参加が出来るよう努めて参りたいと考えています。

④ 感染症対策の徹底。

新型コロナウィルスをはじめ、インフルエンザ等の感染症予防対策への取り組みを強化し、安全で安心できる環境を整える事が出来ました。

(3) ネットワークづくり

家族交流会の開催は断念しましたが、日々、利用者・家族・職員間での情報交換や連携に努め、相互理解を深めて参りました。

3. 行事報告

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・公園外出 ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ	・鯉のぼり作り ・マイントピア別子 ・医師の健診	・ドライブ ・干支作品製作 ・じゃがいも販売	・レクレーション ・公園外出
8月	9月	10月	11月
・スイカ割り大会 ・レクレーション ・医師の健診	・芋ほり・販売 ・消防訓練 ・ティクアウト ・敬老の日プレゼント作り	・公園外出 ・ドライブ	・医師の健診 ・レクレーション
12月	1月	2月	3月
・クリスマス会 ・イオン作品展	・初詣 ・書初め ・わくわく成人式 ・抱負絵馬作り ・レクレーション	・節分 ・ティクアウト弁当 ・レクレーション ・医師の健診 ・	・ひな祭り ・消防訓練 ・公園外出

※毎月、清掃ウォーキング・図書館利用

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

令和3年度事業報告

地域子育て支援拠点事業 にこちゃんパーク

1. 経営方針

(1) 交流の場と居場所の提供

妊娠期の方や、概ね3才未満の子育て中の親子が気軽に集い、親子同士の出会いと交流を通して、子ども達が自由に遊んだり、家庭的な雰囲気の中で、安心して楽しく過ごせる場を提供しました。

(2) 子育て相談

育児に対する不安感・負担感などを理解し、身近な相談相手として、いつも笑顔で温かく迎え入れ、子育ての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、気軽に話せる関係づくりを大切にしました。

(3) 情報の共有

市役所の子育て支援課や保健センター（すまいるステーション）、他の子育て支援拠点施設との連絡会を通して、子育てに関する情報の共有に努めました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ・週4日、月・火・木・金曜日（祝日を除く）を開所しました。
- ・子育て中の親子の出会いと仲間づくりの援助を行いました。
- ・安心して遊んだり、自由にかかわり合える場を提供しました。

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・安心して話せる関係づくりを大切にして、利用者の悩みに寄り添い、少しでも軽減出来るように努めました。
- ・個人情報保護に努めながら、育児相談を継続的に受け入れていくよう配慮しました。
- ・必要に応じて、すまいるステーションを紹介したり、子育て支援課と連携をとり情報を提供しました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・毎月の行事予定（にこちやんだより）を発行し、配布しました。
- ・市内の子育て支援拠点施設や子育て支援センター、児童館や児童センター、子育てサークルなどの予定表を掲示したり、保健センターや子育て支援課からのプリントを配布し、さまざまな地域情報をお知らせしました。
- ・子育てに関する新聞記事や、地域の行事、講演会などの紹介をしました。
- ・子育て応援ブックや、子育て応援パスポートなどを説明し、配布しました。

(4) 子育ち・子育て支援に関する講習等の実施

- ・子育て中の親子のニーズを把握して、講習を計画し、実施しました。
(親子でヨガ)
- ・ボランティアによる活動を計画し、お話し（回転木馬）や、ハーバリウム作り等、定期的に来て頂きました。
- ・身边にある材料を使っての、おもちゃ作りやあそびを紹介し、実施しました。

- ・誕生会で誕生児の手形と写真を撮り、手作りの誕生カードを作成、記念にお渡しました。
- ・身体測定（身長・体重）を行い、成長の喜びを共有しました。

(5) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

子育て中の親子が、安全に過ごせるよう、手指消毒・検温・マスク着用をして頂き、利用者人数の制限を行って、密集・密接を減らしたり、室内の換気・加湿に気を付けながら、遊具・玩具などの消毒・除菌をこまめに実施して感染防止に留意しました。

(6) 広報活動

- ・毎月の行事予定や、活動内容などインスタグラム、三恵会のホームページのブログに掲載しました。予定表（にこちゃんだより）を市役所・十全総合病院・川東の公民館4ヶ所に、置かせて頂きました。
- ・すまいるステーションとの連携により、事業所を紹介しました。

3. 研修報告

(1) 施設内研修

- ・職員全体会

職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修に参加しました。

(2) 施設外研修

- ・新居浜市地域子育て支援拠点事業（全8施設）の連絡会、代表者会に参加しました。

4. 行事報告

- ・毎月実施…ボランティアによるお話会（回転木馬）・ハーバリウム作り・誕生会（誕生カード作成）・作って遊ぼう（工作）親子でヨガ・身体測定（成長記録カード作成）
- ・随時実施…館内の高齢者、障がい者との交流・子育て相談など

★新型コロナウイルス感染拡大防止の為 利用人数を制限（5~6組）したり、ランチタイム（12時～13時）は中止しました。2度の休所期間（8/13～10/20・1/31～3/21）が有り、休所中、新しい取り組みとしてインスタグラムを開設して、エプロンシアター・手ぶくろシアター・パネルシアターなどを掲載し、情報発信しました。

主な行事内容

	つくって遊ぼう	誕生会・親子でヨガ・ハーバリウム作り お話会(回転木馬)・身体測定・その他
4月	かぶと	手遊び歌・絵本・リズム遊び・紙芝居・手袋シアター・パネルシアター・折り紙あそび・お絵かき
5月	時計	手袋シアター・紙芝居・手あそび歌・パネルシアター・絵本・楽器あそび・お絵かき
6月	びっくりヘビくん	手あそび歌・リズムあそび・絵本・紙芝居・パネルシアター・手袋シアター・ボール遊び・七夕笹飾り製作
7月	七夕笹飾り	七夕まつり・手あそび歌・絵本・パネルシアター・紙芝居・新聞ボールあそび・しゃぼん玉あそび
8月	中止	絵本・紙芝居・パネルシアター・手あそび歌 ★新型コロナウイルス感染拡大防止の為、8月13日から当面の間、休所。休所中は、三恵会のホームページ、ブログ掲載(活動報告)、防火避難訓練(全館合同)、手作りおもちゃの指人形を、ドライブスルー方式で配布、インスタグラム掲載(休所のお知らせ・うちわシアター・エプロンシアター・ホッピングフロッグ・かえるの手あそび歌・手袋シアター・毎月の予定表・活動写真・開所のお知らせ等)
9月	中止	★10月21日より開所
10月	中止	絵本・手あそび歌・エプロンシアター・紙芝居・パネルシアター・風船あそび・どんぐり木の実あそび
11月	クルクルストロー	大型絵本・大型紙芝居・エプロンシアター・折り紙あそび・お絵かき・楽器あそび・クリスマス会 ★子育て応援フェスタ in にいはま(ワクリエ新居浜)
12月	クリスマスツリー	絵本・手あそび歌・伝承あそび(わらべうた、コマ) ★新型コロナウイルス感染拡大防止の為、1月31日から当面の間、休所。
1月	お面(ウルトラマン鬼)	休所中はインスタグラム掲載(休所のお知らせ・パネルシアター・手袋シアター・開所のお知らせ等) ★3月22日より開所
2月	中止	防火避難訓練(全館合同) 4月のカレンダー作り(桜)・折り紙あそび・お絵かき
3月	中止	

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

令和3年度 事業報告

地域密着型介護老人福祉施設うみかぜ

1. 経営方針

令和3年度は、科学的介護への取り組みを目標に掲げ、委員会を立ち上げ職員達と勉強を重ねることにより、科学的介護体制・褥瘡マネジメント・排泄ケア支援・口腔衛生管理・栄養マネジメント・個別機能訓練など多くの科学的介護関連加算を算定いたしました。科学的介護に取り組む過程においては、各部署に混乱が生じた時期もありましたが問題を一つずつ解決し、ご利用者にとって適切な介護を提供できました。また、科学的介護関係加算により290万円の増収となりました。しかし、年末からご利用者の体調不良による入院が増え、うみかぜ目標実績稼働率97.5%に対し、96.9%のマイナス実績となりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①感染対策を徹底し、新型コロナなどの感染症の施設内蔓延は防止できました
- ②BCP研修に参加し、災害計画を策定いたしました
- ③看取り介護を実践し、最期までご利用者及びご家族に寄り添いました

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①認知症対応力向上のため、認知症介護実践リーダー研修に参加いたしました
- ②介護基礎研修（オムツの当て方等）を開催し、介護力向上に努めました
- ③科学的介護委員会を立ち上げ、科学的介護を計画・実践いたしました

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①目標稼働率の達成には至らず、未達成の要因を検証し次年度達成に繋げます
- ②排泄支援計画により紙おむつ使用量減少を試みるも、結果が伴いませんでした
- ③毎月の光熱水費使用状況報告を継続し、節電などの節約に繋がりました

3. 研修

(1) 施設内

- ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・三恵会本部主催研修
- ・認知症ケア（2回）
- ・緊急時の対応（心肺蘇生マネキン使用）
- ・藤田医科大学病院 口腔ケアと摂食障害対策（リモート研修・科学的介護）
- ・新型コロナ感染対策（ユーチューブ研修）

(2) 施設外

- ・老人福祉施設協議会主催 高齢者の虐待、科学的介護への取り組み
- ・愛媛県主催 咳痰吸引研修会（リモート研修）
防災に関する研修
 - 認知症介護実践リーダー研修
 - ・ユニットリーダー研修会（リモート研修）
 - ・ユニット管理者研修会（リモート研修）
- ・地域密着型サービス協会研修会（ヒューマンエラー対策、看取り介護）

4. 行事

4月 花見	10月
5月 ドライブ（ふじ、芍薬見物）	11月 防火訓練
6月 防火防災避難訓練	12月 クリスマス会
7月 七夕	1月 初詣
8月 バーベキュー	2月 節分
9月 敬老会	3月 ひな祭り

<毎月の共通行事> ユニット活動（誕生会、おやつ作り、個別外出）、生け花、

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・運営推進会議（書面会議4回、施設開催2回）・めぐみカフェ（3回）
- ・職員地域清掃（月1回）

グループホーム
かがやき

令和3年度事業報告

グループホームかがやき

1. 経営方針

令和3年度はグループホームにおいても、科学的介護への取り組みを実践し、科学的介護体制加算を算定いたしました。また、グループホームとして認知症ケアに特化するために、認知症介護実践リーダー研修に参加し、認知症の方々の心理状況や行動を理解するために必要な知識やスキルを学び、認知症介護の質を高めるよう努めました。

コロナ禍の影響により、ご利用者とご家族の面会は制限され、外食や外泊などの楽しみはなくなりましたが、市内のドライブや公園散歩を頻回に実施、少人数に分割した夏祭り等を開催し、ご利用者が笑顔になって頂ける工夫をいたしました。

かがやき目標稼働率入所 99%に対し、99.1%の実績で目標を達成いたしました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①感染対策を徹底し、新型コロナなどの感染症の施設内蔓延は防止できました
- ②BCP研修に参加し、災害計画を策定いたしました
- ③看取り介護研修に参加し、最期までご利用者の尊厳を守る学習をいたしました

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①認知症対応力向上のため、認知症介護実践リーダー研修に参加いたしました
- ②介護基礎研修（オムツの当て方等）を開催し、介護力向上に努めました
- ③科学的介護委員会を立ち上げ、科学的介護を計画・実践いたしました

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①目標稼働率は達成できました
- ②オムツ購入は現状維持であり、排泄計画に沿った節約になりませんでした
- ③毎月の光熱水費使用状況報告を継続し、節電などの節約に繋がりました

3. 研修

(1) 施設内

- ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・三恵会本部主催研修
- ・認知症ケア（2回）
- ・緊急時の対応（心肺蘇生マネキン使用）
- ・藤田医科大学病院 口腔ケアと摂食障害対策（リモート研修・科学的介護）
- ・新型コロナ感染対策（ユーチューブ研修）

(2) 施設外

- ・老人福祉施設協議会主催 高齢者の虐待、科学的介護への取り組み
- ・愛媛県主催 咳痰吸引研修会（リモート研修）
防災に関する研修
 - 認知症介護実践リーダー研修
 - ・ユニットリーダー研修会（リモート研修）
 - ・ユニット管理者研修会（リモート研修）
- ・地域密着型サービス協会研修会（ヒューマンエラー対策、看取り介護）

4. 行事

4月 花見	10月
5月 ドライブ（ふじ、芍薬見物）	11月 防火訓練
6月 防火防災避難訓練	12月 クリスマス会
7月 七夕	1月 初詣
8月 バーベキュー	2月 節分
9月 敬老会	3月 ひな祭り

<毎月の共通行事> ユニット活動（誕生会、おやつ作り、個別外出）、生け花、

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・運営推進会議（書面会議4回、施設開催2回）・めぐみカフェ（3回）
- ・職員地域清掃（月1回）

兒 童 福 祉 施 設
中 萩 保 育 園

令和3年度 事業報告

1、経営方針

保育現場も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年でした。三密が避けられない保育現場では、感染対策は困難を極めましたが子ども達の安全を守るために職員間で話し合いながら環境整備に努めてきました。そうした取り組みの中でも感染拡大により休園を余儀なくされ、保護者の協力がなければ防ぐことは困難だと改めて痛感しました。

コロナ禍での生活で行動が制限される中、子どもの育ちに欠かすことのできない「遊び」や「人との関わりの経験」が保障されにくいという課題があります。これまでの保育を振り返り、見直し、実践する機会と捉え、子どもの成長を第一に考え取り組みました。

今後も、子ども達を取り巻く環境の変化、長期化するコロナ禍での生活、この状況下での保育の在り方、保護者支援の在り方を考え取り組む必要があります。保育、子育てニーズを受け止め、職員間で共通理解を深めることで質の向上に繋げていきたいと思います。また、子ども達の人権を「守り」「育む」保育を実践できるよう職員間で協働を図り、子ども・保護者・職員が共に育ちあう保育園づくりを目指していきたいと思います。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

- ・朝の受け入れ時の観察、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
- ・毎日、保育室や廊下の消毒を行い、感染症予防に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に努め、手洗い、室内換気の徹底に努めた。
- ・安全対策委員を設置、避難訓練や不審者侵入を想定した訓練を行い、危機管理意識を持つように努めた。
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができた。今後も生活の場を整備し、子どもの動きを想定することで安全保育に繋げていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・子どもの気持ちに共感することで子ども達が安心して生活ができるよう環境を整備した。今後も乳幼児期の成長発達を理解し、自己肯定感が育つようにしていきたい。
- ・基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず一人一人を大切に関わっていきたい。
- ・戸外遊びを通して体力づくりに取り組んできた。
- ・児童センターやキラキラ公園まで散歩に行き、自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・年2回、十全総合病院小児科（長谷川Dr）、藤田歯科クリニック（藤田Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋げている。
- ・発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋げている。
(住友病院眼科スタッフによる眼科検診は、新型コロナウイルス流行のため中止)
- ・発達支援課による巡回相談、就学相談を受け、支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができ、クラスの一員として協調できるように保育している。
- ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。情報交換を行った。就学に向けての引き継ぎ、支援を必要とする子のサポートファイル作成等、小学校との連携を取っている。
子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。
*各機関との連携は今後も大切にしていきたい。
- ・上部児童センター運営協議会に参加、子どもを中心に地域との交流を深め、健全育成に係ることができるよう意見交換を行った。
- ・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を取っている。

④危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い、子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。3年度は施設強化加算の申請を行い、カラーマット、誘導ロープを購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。掲示板に避難経路を掲示し、保護者にも知らせている。
- ・セコムに依頼し防犯対策に努めている。
*今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで、防災、防犯意識を高めていきたい。

（2）「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

- ・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。また、保育協議会主催のキャリアアップ研修を受け知識を深めることに繋げた。（3年度は、リモート研修を受講）
- ・自己評価をすることで自分自身の反省評価を行い、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がる保育を目指してきた。今後も職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていきたい。
*日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。
*今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していくけるよう取り組んでいきたい。

②専門性の充実

- ・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。
- ・全体計画に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。
- ・看護師による健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。また、職員に嘔吐物処理の仕方について講習を行い、職員間での周知を図った。
また、サニクリーンに依頼しAEDの講習を実施した。
- ・栄養士を中心に保育士、調理員が話し合いながら食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）を行った。また、アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供を行った。
*毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

（3）「堅実な経営」の実践

- ・職員の育児休業復帰に伴い、0歳児の途中入所3名を受け入れることができ安定した経営に繋がった。
- ・定期的に保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険箇所の修繕を随時行った。
- ・日々、忙しく業務に追われている中にも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対してのやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。
- ・職員間で備品チェックを行いながら無駄をなくすよう取り組んできた。

3、研修実績

（1）施設内

職員会（クラスの状況報告、気になる子について、給食検討、けがの報告等）、
安全対策委員会、先任者会、主任会

（2）施設外

キャリアアップ研修（リモート研修）
保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）
日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育
三恵会本部主催の研修

4、行事実績（年間）

- 4月 入園式（中止）、年長児発音検査
- 5月 遠足、園児歯科検診、園児健康診断

6月 わくわくお楽しみ会ごっこ、プール開き
7月 七夕集会、就学相談
8月 プール大会（バイキング給食）
9月 敬老の日ハガキ投函、年中児眼科検診（中止）
10月 運動会、お祭りごっこ、交通安全教室、園児歯科検診
11月 遠足、園児健康診断、火遊び防止教室
12月 クリスマス会、新入園児申請書受付、在園児家庭現況届提出、巡回相談
1月 もうすぐ1年生撮影（中止）
2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）、記念撮影
*新型コロナウイルス感染症流行のため、もうすぐ1年生、発表会はDVD撮影（無観客）を行った
3月 ひな祭り集会、お別れ遠足、お別れ会、卒園式
*毎月実施…誕生会、異年齢児交流、食育活動、避難訓練、身体測定など

5、地域交流、ボランティア、実習生

- (1) 地域交流状況
- (2) 実習生受け入れ
東雲短期大学（1年生）、聖カタリナ短期大学（1年生）
- (3) 体験学習の受け入れ
*3年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

令和3年度 事業報告

養護老人ホーム新居浜市立慈光園

1. 運営方針

令和3年度は、指定管理者として慈光園を管理する3期目の初年度となりました。新型コロナウイルス感染症流行により、全国の高齢者施設等でクラスターが相次ぎ感染の危機に直面した1年間となりましたが、感染症対策ではコロナワクチン接種を年間通じ3回実施しました。職員、利用者をはじめ感染予防の効果を理解していただいた上で接種率は90%以上の対応ができました。

また、新規入所者、ショートステイ利用者等へのPCR検査、抗原検査を徹底して行い外部からのウイルス持ち込みを阻止する為に他機関との協力体制の構築に努めました。利用者のご家族様に対しては、面会の制限をするなど期間を定め利用者に対し自粛措置をとり、感染症予防策として日々変化する感染状況に応じて臨時感染症委員会を9回開催し、市町村と連携をとりながら職員及び利用者の安全配慮の為に指定管理者として対応しました。

このような中で、利用者の心身の低下による支援の増加、精神疾患を持った方や生活困窮者の入所が多くなるなど自立支援困難者の増加に伴い利用者の個人差が大きくなる中、一人ひとりのADLに応じた処遇計画を作成し、医療機関や介護福祉施設と連携を図り、生きがいを持って日常生活が送れるよう利用者個々に応じたデイケアやデイサービスの利用を進め、利用者の生活力を高め社会参加の助長の継続に指定管理者として支援しました。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①利用者個々の状態に応じて個別処遇計画に係るP D C Aサイクルに取り組み実践に努めました。
- ②園内におけるクラブ活動や他の団体が主催するイベント等へ出展、創作活動などを推進し、生活意識の向上に努めました。（感染症対策の為、規模を縮小）
- ③嗜好調査の実施により季節感や彩に配慮した食事提供に努め、衛生管理と食品管理を適正に行いました。
- ④園近隣における清掃活動を実施するとともに、金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守りボランティア活動を実施しました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①地域包括ケアシステムの構築に向けた諸施策の整備や編成が進む中で関係機関等との連携及び情報の共有をはかり、処遇困難な利用者への対応に努めました。
- ②研修に関してはリモートを通じて習得しました。(感染症対策)

(3) 「堅実な経営」の取組み

- ①毎月の予算執行管理を確実にするとともに、財務諸表の点検、月々の変動、経年変化、前年同月比較を実施し経営管理を行いました。
- ②物品の適正な在庫管理に努め、購入にあたっては見積りを取りなどの経費削減に努めました。
- ③デマンド量の監視により電気使用状況を把握し職員、利用者に節電を呼び掛け、電気料金の削減に努めました。
- ④ストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルスケアを行いました。
- ⑤社会福祉施設における新型コロナウイルス感染拡大防止策を市町村と連携し安全配慮を行いました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ①職員全体会（月1回）、主任会（月1回）
- ②ガウンテクニック（勉強会）、嘔吐物処理（勉強会）、AED講習
- ③愛媛県社会福祉協議会eラーニング（テーマ別研修）

(2) 施設外研修

- ①老人福祉施設協議会（新居浜市）の研修会
- ②三恵会法人本部主催の研修会

4. 行事実績

年間を通じて、新型コロナウイルス感染症対策の為、当初の計画に対し外出行事は大半が中止。園内におけるクラブ活動等においては規模を縮小しての実施となりました。

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

金栄公民館ロビー展 展示（利用者の作品） 新居浜市餅つき大会
地域清掃・金栄見守り隊

(2) ボランティア受入

一宮グループ（剪定作業）・ネットトヨタ瀬戸内（公用車室内抗菌）